

米子市立後藤ヶ丘中学校 福祉教育実践の軌跡



福祉教育の目標

本校の福祉教育目標は、学校の全教科・全領域を通して生徒の福祉の心を育て、社会福祉への関心と理解を高め、公共に奉仕する心情や社会連帯の精神及び自己の責任感を育成することを目指しています。

ア. 福祉に対する関心を高め、学校全体としての福祉の心を育てる。

イ. 教科・道徳・特別活動において、情操を高め、豊かな人間性を育成する。

ウ. 生徒会活動(委員会)の中で、環境美化や福祉の活動を中心として、美しいもの、よきものについて理解し、大切に作る心を育てる。



実践の報告



○職場体験学習

今年度の職場体験学習は、2年生が9月4日～9月6日の3日間で実施しました。生徒たちは地域で様々な仕事に従事されている人たちとの関わりの中で、将来の自分の職業選択について考えを深めました。この体験を通して、働くことの大変さを知り、それぞれの職場で自分が必要とされる経験を持ったことにより仕事に対するやりがいも実感することができました。



○手話学習

今年も指導員の方々をお招きして手話教室を行いました。生徒たちは実際に手話を使っておられる方のお話を聴いたり、手話で自己紹介をしたりすることで、「手話」というコミュニケーションについて学びました。



おわりに

今年度も学校行事を通して生徒たちの体験的な活動の機会をつくることができました。さまざまな活動を通じて、人の役に立つことの喜びや人とのつながりを感じる機会を持つことができました。次年度は、委員会としての活動も充実させていきたいと思えます。

生徒たちは特別な体験以外にも、日常生活の中での様々な出来事や、生徒同士、教職員との関わりからも多くの学びや気づき、心の変化等を経験しています。それらの経験が人としての成長の糧となり、今後のよりよい人間関係構築や豊かな心を育む手助けになるような福祉教育の実践をしていきたいと思えます。